



■ハウス内で行われた一番茶の手摘み

一番茶 丁寧に手摘み ～ハウス茶研修会～

今年も市内各地で新茶の収穫が始まりました。これに先立ち、県農業技術振興センター茶業指導所で4月17日、一番茶の茶摘み研修会が開催されました。

市シルバー人材センターの会員30名が参加、ビニールハウス内で栽培された品種「ごこう」を収穫しました。会員の皆さんは、先端近くの柔らかい部分だけを摘み取る「しごき摘み」を実習し、色や手触りを頼りに新芽と古い芽を区別しながら手摘みの感覚を確かめていました。

収穫された約70キロの生葉は、続いて開かれた農家の製茶研修会で荒茶に加工されました。

今年の茶の生育について、同指導所では「3月に暖かい日が続いたため生育が早く、良質な茶が期待できる」と話しています。

お茶づくしの1日

～茶業指導所参観デー～

県農業技術振興センター茶業指導所で4月29日、参観デーが行われ、多くの家族連れなどでにぎわいました。

このイベントは、茶業指導所の研究内容を広く知らせ、近江の茶に関心をもってもらい、茶の消費拡大をねらおうと開催されたもの。手もみ製茶実演、手摘みや製茶体験、お茶の実を使ったゲームなど、どのコーナーも人気があり行列ができていました。

また、新茶・紅茶の試飲や、新芽の天ぷらや茶ジャムなど、茶葉を使った料理の試食もあり、訪れた皆さんは、栄養たっぷりヘルシーなお茶料理を味わっていました。

会場内6か所を回るスタンプラリーでは、最後に新茶をプレゼント。子どもから大人まで、楽しみながらお茶に親しんだ1日となりました。



■お茶の天ぷらを味わう子どもたち

■手もみ製茶の実演



忍者ゆかりの地を探訪

～甲賀流忍者の里山ウォーク～

■六角堂で説明を聞く参加者
■忍術村では忍者修行も?



甲賀・甲南地域の里山を歩く甲賀流忍者の里山ウォークが4月27日、開催されました。このイベントは、忍者の歴史を市の観光資源に生かそうと、甲賀町と甲南町の観光協会が共催したもので、昨年に続き2回目。遠くは京都・大阪からの参加もあり、121名が4時間あまりかけて約12キロのウォーキングを楽しみました。JR甲南駅を出発し、忍術屋敷、六角堂、大鳥神社など忍者ゆかりの地に立ち寄りながら、終着点のJR甲賀駅をめざしました。昼食には、地元産のたけのこ飯と忍者鍋が振る舞われ、特産品が販売されるなど、忍者の里をPR。参加者の皆さんは、忍者の歴史を学び、甲賀の春の味覚を満喫していました。



■田んぼで羽を休めるコブハクチョウ(甲賀町小佐治)



コブハクチョウが飛来しているのが、市内で確認されました。コブハクチョウは、くちばしの付け根にある黒いコブが特徴。ハクチョウの仲間では、オオハクチョウやコハクチョウが、日本に越冬にやってくるが、コブハクチョウが渡って来たとの記録はほとんどありません。今年3月以降、土山の野洲川や、甲賀町小佐治の水田で羽を休める姿が確認されており、1羽のコブハクチョウが、場所を移動しているものと思われまます。みなくち子どもの森自然館では「コブハクチョウは、国内の公園や動物園で飼育されることが多く、何らかの原因で逃げ出したものが野生化した可能性も。甲賀市内ではめったに見られない種類のハクチョウです」と話していました。

コブハクチョウが飛来

コブハクチョウが飛来しているのが、市内で確認されました。

コブハクチョウは、くちばしの付け根にある黒いコブが特徴。ハクチョウの仲間では、オオハクチョウやコハクチョウが、日本に越冬にやってくるが、コブハクチョウが渡って来たとの記録はほとんどありません。

今年3月以降、土山の野洲川や、甲賀町小佐治の水田で羽を休める姿が確認されており、1羽のコブハクチョウが、場所を移動しているものと思われまます。

みなくち子どもの森自然館では「コブハクチョウは、国内の公園や動物園で飼育されることが多く、何らかの原因で逃げ出したものが野生化した可能性も。甲賀市内ではめったに見られない種類のハクチョウです」と話していました。



■期総会に集う健康推進員の皆さん

私たちの健康は私たちの手で

～市健康推進連絡協議会～

市健康推進連絡協議会の平成20年度の定期総会が4月22日、甲南情報交流センター忍の里プララで開催されました。健康推進連絡協議会は、地域ご活躍いただく健康推進員の皆さんで組織される協議会で、現在、503名の皆さんが同会を基盤に地域住民の皆さんの健康保持・増進のための活動を展開いただいています。総会には、中嶋市長も出席し、「元

気ある甲賀市、光輝く甲賀市を築いていただきたい」とあいさつ、健康づくりを核としたまちづくりへの協力をお願いしました。また当日は、総会に先立って、健康推進員として新たに活躍いただく73名の皆さんへの委嘱状交付式も行われ、中嶋市長から委嘱状が手渡されました。今後ますますのご活躍をお願いします。

忍者の里 卓球が人結ぶ

～甲賀・伊賀卓球交流会～



■伊賀市との交流が図られた卓球大会

第1回甲賀・伊賀卓球交流会が4月12日、土山体育館で開催されました。

甲賀市と伊賀市は、災害時応援協定などさまざまな分野で広域連携をしており、その交流は民間にも広がってきています。

この大会は、忍者の里同士が卓球で交流を深めようと、両市の卓球協会が企画。試合は5人1チームで行われ、小学生から70代まで約100名の皆さんが汗を流しました。

甲賀市卓球協会会長の倉谷義数さんは、「卓球は、世代を越えて誰にでも気軽にできるスポーツ。今回は初めてなので、まず互いのレベルを知り、交流することが中心。いずれは、対抗戦ができれば」と今後に向けて意気込みを語りました。

卓球が盛んな甲賀市と伊賀市。次回は、伊賀市で開催される予定です。